

### ここに注目！ 「高齢者にやさしい商店街」を目指して、イベントや安心・安全なまちづくりを推進



#### ポイント

桑名市旧市街地に立地し、商圈に高齢者が多いことから、「高齢者にやさしい商店街」という方向性の下、月 6 回開催される「三八市」等のイベント、ふれあいカードの発行、安心・安全なまちづくりなどを積極的に推進。

#### [現状分析及び課題抽出]

#### Plan

#### 「高齢者にやさしい商店街」を目指す

寺町通り商店街は、朝市やイベント等を積極的に開催し、盛時は一日約 1 万 5 千人の集客があった。しかし、近隣への大型店立地による来街者の減少や店主の高齢化が進んだことから、平成 15 年に商店街の有志で、専門家や行政の参加を得て「りにゅうある商会」を発足させ、商圈分析等を実施。その結果、商圈には 60 歳以上の高齢者が多いこと、商圈は自転車等で 15 分程度の狭い範囲であることが明らかになった。議論を重ねた結果、60 歳以上の住民をターゲットにした「高齢者にやさしい商店街」を目指すことにより、活性化を図っていくこととなった。

#### [対応策の優位性]

#### Do

#### ふれあいカード発行によるファンづくり

「高齢者にやさしい商店街」としての方向性のもと、平成 17 年から「ふれあいカード事業」を開始。対象は、60 歳以上の顧客で、会員になるとすべての加盟店で割引や景品等、各店の思い思いのサービスを受けられる。平成 26 年 10 月時点のカード利用者数は 3,245 人。高齢者とのつながりをより深くする商店街作りに寄与している。また、商店街をショッピングセンターのような位置づけにしようと、無料で利用できるカートを設置。南北 200m にわたり、ゆったりと楽しみながら買い物ができる環境作りも行われている。

#### 基本データ

桑名市寺町通り商店街振興組合

所在地: 三重県桑名市北寺町

人口: 約 14 万人 (桑名市)

会員数: 45 名

店舗数: 36 店舗 (買回品小売店 10、最寄品小売店 19、飲食店 4、サービス店 3、その他 0)

商店街の類型: 近隣型商店街

主な客層: 高齢者、主婦、家族連れ

関連 URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~trz/>

#### 商店街概要

桑名駅の東側に位置し、南北約 200m のアーケード内に 35 の店舗が軒を連ねている。界限には桑名別院本統寺をはじめとする数々の寺院が点在しており、多くの参拝者が訪れていたことから商業が集積した。近年、大型商業施設の進出等、他の商店街と同様、取り巻く環境は厳しいものの、各種イベントの積極的な開催、社会見学の受け入れ、高齢者への「ふれあいカード」の発行等、地域コミュニティの担い手としての役割を発揮している。60 年もの歴史を誇る「三八市」は、県下でも有名な朝市であり、現在も多くの方々の憩いの場として慕われている。



「高齢者にやさしい商店街」をコンセプト

#### [効果の評価及び改善策]

#### Check-Action

#### これまでの成果を礎に、新たな展開へ

「ふれあいカード」は、コミュニケーションツール

の一つとして、顧客とのより親密な関係作り等に貢献している。平成25年6月には、カード会員に対し、全店対象の特別セールスのDMを発送したところ、2日間のセールに約350人が訪れた。また、カートは、重たい荷物を気にせず、ゆったりと買い物できると利用者から大変好評であり、「三八市」の際にはフル稼働している。

こうした地道な努力を続ける中で、近年、飲食店2店舗に加えて、地元スーパーの跡地に、地元のまちづくり会社が運営する「くわなまちの駅」がオープン。空き店舗数は減少傾向にある。この他、防犯カメラの設置やAEDの設置など、安心・安全の街づくりに向けた取組が行われてきた。

今後は、若手が中心となって、子育て層や若者との世代交流を進め、質の高い個性的な商店が集まる「食と文化の街」を目指し、新しい店舗の誘致や地域文化の発信を展開していく。

## 【実施体制等】

### 若手中心に行政とも連携

商店街振興組合の会合に加えて、商店街の若手メンバーを中心とする「てらまちっく委員会」が定期的に会合を開き、毎月第三日曜日に開催するイベントである「十楽市」の企画や商店街の将来ビジョンについて検討。桑名市や商店街も出資する（株）まちづくり桑名と連携した事業に取り組んでいる。



50年続く「三八市」など積極的に企画事業を実施



## キーパーソン

桑名市寺町通り商店街振興組合  
理事長 佐藤 博之

### 若手が主体的に取り組める仕組みづくり

10年以上、振興組合の専務として商店街の活性化に取り組んだ実績を買われ、2年前に理事長に就任しました。ちょうど「くわなまちの駅」がオープンした時期と重なります。

組合の役員はご多分に漏れず60代以上の大御所が多く、若い店主や二代目の意見はなかなか通らない雰囲気がありました。

そこで、10年ほど前に若手メンバーによる「てらまちっく委員会」を立ち上げて、会合や飲み会を頻繁に開催。「十楽市」などの新しいイベントを自分たちで企画し、成功させていく中で、大御所の方々にも理解してもらえるようになってきました。最近は、若手メンバーにも振興組合の会合に参加してもらうようにしています。

そうした中で、「高齢者にやさしい商店街」のコンセプトに基づくこれまでの取組の成果を踏まえながら、21世紀に生き残れる商店街を目指した将来ビジョンを検討しはじめたところです。

### 世代を超えて交流できる商店街へ

「三八市」は、昭和28年から毎月3と8のつく日に継続的に開催しており、桑名の風物詩としてすっかり定着しています。いつも年配の常連客で大賑わいですが、高齢の方に混じって、ベビーカーのお母さんや観光客もちろほら見かけます。これから商圏の住民の高齢化がさらに進んでいくことを考えると、お年寄りだけでなく、子育て世代や若者にも支持される商店街を目指していかないとはいえないと思います。

もともと寺町通りは、仏壇屋、衣料品店、和菓子屋などが多い商店街ですが、お客さんからは「食べるところがあるとええのになあ」という声が聞かれます。そこで、お客さんがくつろげる飲食店や、周辺のスーパーに対抗できる地産地消の生鮮品や総菜が揃うお店を誘致していきたいと考えています。

それから、桑名は歴史ある城下町、「焼き蛤」で有名な東海道の宿場町です。こうした文化面をもっと発信して、観光客も取り込んでいきたいと思っています。